

【親鸞部門(高校)・奨励賞】

約束

私立大谷高等学校 第1学年 野々口歌菜

私は未来の自分に約束してほしいことがある。それは、「過去と向き合い続けること」と「未来を怖がらないこと」である。

形あるものの未来には、必ず終わりがある。私は私の終わりがくるのが怖い。中学生のころからずっとこの悩みと共に生きてきて、一つ学んだことがある。それは、すべての物事は、終わりがあるからそれまでが美しく、輝いて見えるということである。例えば学校生活は、終わりが来なければ変わりのない日常でも、卒業すればすべてがかけがえのない思い出となり、過去が愛おしく、大切に思えるのだ。人生もそれと同じだと思った。終わったことを悔いても変えられない。過去とともに生きていくことになる。だから、自分の選択を後悔するのではなく、むしろ自分で選んだ過去を愛し、大切にもったまま生きてほしいのだ。これはただ後悔するなということではない。少しは悔やむことも、落ち込むこともあるだろう。ただ、向き合ってほしい。忘れようとするのではなく、過去を見つめ直して、たくさん悩んでほしい。それは必ず未来の自分につながるはずだから。

誰だって分からないものや経験のないことを怖がる。未来もその一つで、誰にも予想できないことが起こりうる。現代社会でも、三年前には全く予想できなかった世界が、今広がっている。未来に希望を持って生きていた人々の中には、すべてを奪われ、孤独や不安に抱まれている人もいる。逆に、人生が好転に向かった人もいるだろう。誰にも確実に保証された未来などない。何が起こるか分からない。でも、だからこそ未来は面白いのではないだろうか。わかりきった未来より、未知に挑戦する人生の方がよっぽどワクワクしないだろうか。すべてがうまくいくとは限らない人生でも、懸命に美しく生きられる人に、私はなりたい。そのために未来の私には、過去と向き合い、挑戦を忘れずに生きてほしい。今日交わした約束を思い出しながら。